

10/9

「伝承」を胸に

宇田川小学校創立150周年記念式典



創立 150 周年の節目を迎えた宇田川小学校で、記念式典が行われました。

式典では、書家の石曾根 ますみ さんによる席上揮毫が行われ、児童たちが見守る中、力強い「伝承」の文字を書き上げました。

式典の後には、県北地域を中心に活動するブラスバンド「ママソウル」による記念演奏会が開催されました。アニメの主題歌や最新の流行曲などの演奏に合わせて、児童たちが歌ったり、ダンスをしたりしながら楽しみました。

10/10

教育の推進のために

絵画の売上の一部を寄附



市内にお住まいの蜂巢 貞美 さん(84歳)は、50歳から油絵を習い始め、現在は愛好者の集まりである「大田原油絵クラブ」の会長を務めています。9月に初の個展を開き、描きためた風景画や静物画など約50点を展示・販売し、その売上の一部を、市教育委員会に寄附したいと申し出てくださいました。

「絵を描くこととそれを共有できる仲間たちは私の生きがい。」と話す一方、「今回の売上を地域のために使ってほしい。子どもたちの教育に役立ててほしい。市民の皆さんがひとつでも好きなことを見つけてくださいますように。」とのことでした。

10/11

世界大会での活躍を誓う

船越義珍杯第16回世界空手道選手権大会出場報告



8月3日から4日にかけて行われた「第66回小学生・中学生全国空手道選手権大会」で3位に入賞した永倉 辰規 さんが市長を表敬訪問しました。

永倉さんは、10月25日から27日にかけて高崎アリーナ(群馬県)で行われた「船越義珍杯第16回世界空手道選手権大会」の出場権を得たことを市長に報告し、大会での活躍を誓いました。

永倉さんはその後、世界選手権大会3位の好成績を収めており、更なる活躍が期待されます。

10/11

壮行会を開催しました

第36回全国健康福祉祭(ねんりんピック)とっとり大会壮行会



市本庁舎にて、第36回全国健康福祉祭(ねんりんピック)とっとり大会の出場者壮行会が開催されました。

栃木県代表団に、大田原市から7種目(テニス、ソフトボール、サッカー、ソフトバレーボール、太極拳、健康マージャン、美術展・洋画)、9名の選手が選出されました。

大会中の健康と活躍、地域間の交流が深まることを祈念し、相馬市長が激励の言葉を贈りました。皆さまご出場おめでとうございます。

10/12

10/13

将棋のまちおおたわら 活動報告

全国将棋サミット 2024・将棋を楽しもうおおたわら 開催



10月12日、「全国将棋サミット 2024」が那須野が原ハーモニーホールで開催されました。将棋文化の継承と普及、発展を目指す25の将棋文化振興自治体と日本将棋連盟所属のプロ棋士や女流棋士が一堂に会し、交流を深めました。

午後からの公開行事では、自治体取組事例報告やU字工事と棋士のトークショー、記念席上対局などが行われ、本市内外から参集した700名の将棋ファンを楽しませました。

10月13日には、「将棋を楽しもうおおたわら」が市役所本庁舎1階市民協働ホールで開催されました。リーグごとに分かれて将棋の腕を競う「大田原将棋名人杯」や日本将棋連盟所属のプロ棋士や女流棋士による指導対局「将棋の集い」が行われ、棋力の向上を目指し将棋を指しました。

10/17

新たな体験でフレイル予防を

高齢者向けeスポーツ体験会



フレイル予防、認知症予防などを目的に、川西高齢者ほほえみセンターにおいて、とちぎeスポーツ地域活性化実行委員会主催の「高齢者向けeスポーツ体験会」が開催されました。

体験会では、運営する実行委員会から操作方法に関する丁寧なサポートがあり、また、協賛の株式会社明治からは栄養に関する相談受付や説明がありました。参加者はeスポーツを初めて体験するばかりで、中には90歳の高齢者もいましたが、みんなで楽しくゲームをして笑顔が絶えない体験会となりました。

10/19

おかげさまで開業20周年

道の駅那須与一の郷 20周年記念祭



「道の駅那須与一の郷」は、平成16年に栃木県で11番目の道の駅としてオープンしました。20周年を迎えるにあたり、くす玉開きでお祝いし、地元新鮮野菜の販売、協力団体による出店や音楽・ダンス・体験イベントが会場を盛り上げました。秋の緑化運動として、ブルーベリーとオリーブの苗木配布会も同時開催し、多くの方にご来場いただきました。これまでご協力・ご利用いただきました皆さまに感謝申し上げます、末永く愛される道の駅として事業を展開してまいります。



苗木配布会

10/20

備え万全、士気高揚

消防団通常点検



市長による服装点検や機械器具点検を通して、火災などに対する備えが万全であることを確認するとともに、団員の規律維持や士気高揚を目的として、通常点検を実施しました。

また、分列行進の披露や、消防活動に貢献した団員や分団に対し表彰も行われました。

市民の皆さまには引き続き、火災や災害などの現場で活動する消防団員へのご支援やご協力をよろしくお願いいたします。

10/22

目指せ未来の甲子園球児

オールジャパンベースボールリーグ中等部全国大会2024優勝報告



中学生軟式野球チーム「B-スピリッツ」の皆さまが、市長を表敬訪問し、「オールジャパンベースボールリーグ中等部全国大会2024」にて優勝したことを報告しました。

全国から集まった強豪チームとの対戦時の経緯や、選手一人ひとりから今後への意気込みについて語っていただきました。

全国優勝を成し遂げた、B-スピリッツの皆さまの更なる活躍を期待しています。

10/23

松も冬支度

下侍塚古墳こも巻き



二十四節気の一つ「霜降」に当たるこの日に、侍塚古墳松守会が中心となり恒例のこも巻きが行われました。侍塚古墳は、江戸時代から地域の人々によって守られてきた貴重な文化財です。

湯津上地区の小・中学生も参加し、侍塚古墳松守会の会員や地域の方から伝統的な「いぼ結び」という結び方を習い、楽しみながら松にこもを巻きました。

巻かれたこもは、翌年3月5日の「啓蟄」の日に取り外し、焼却します。

11/2

竹工芸の魅力を発信

第27回全国竹芸展



11月2日から4日にかけて、那須与一伝承館にて第27回全国竹芸展が開催されました。全国から応募があったすべての作品が展示されたほか、会場内に設けた実演コーナーでは、竹工芸作家の手業を間近で見ることができ、来場者との交流が深まりました。また、竹工芸作品の即売会も盛況でした。

期間中は市内のみならず、市外、県外からも多くの方が来場し、竹工芸作品に魅了されていました。また、竹工芸に携わる方同士の交流も深まったようです。

11/2

芸術の秋にふれて

第6回アーティスト・イン・レジデンス展



芸術文化研究所（旧両郷中学校）において、11月2日から9日まで大田原市制施行70周年記念第6回アーティスト・イン・レジデンス展が開催されました。

アーティスト・イン・レジデンス大田原2024で招聘しました外国人作家（台湾、韓国、アメリカ、フランス）4名が8月に公開制作した木彫作品とシャッターアート（当展覧会ではパネル展示）のほか、芸術文化研究所が開催する芸術講座の受講生の作品が多数展示されました。たくさんの方にご来場いただき、大変好評でした。

11/6

風船を飛ばして節目を祝う

奥沢小学校創立150周年記念行事



奥沢小学校で、創立150周年の記念行事として、校内マラソン大会とバルーンリリースが行われました。

寒空の下、保護者の方々や地域の方々が応援する中、児童たちは自己ベスト更新を目指し、ゴールまで全力で走り抜きました。

マラソン大会の後には、全校生と地域の方々がバルーンリリースを行い、創立150周年の節目を祝いました。



『八万年後にまた』 紫金山・アトラス彗星

投稿者：ポムポム
撮影場所：御亭山

ゆっくりと流れていく彗星に、
一生分の願いを込めました。



『みんなのひろば』投稿募集

問情報政策課 6階 0287-23-8700
✉johou@city.ohawara.tochigi.jp

●応募方法

Eメールに写真を添付し、本文に次の①～⑥を記入して情報政策課にお送りください。

①コーナー名

- ・我が家の『○○』(家族や自慢のレシピなどの紹介)
- ・いといと撮り(市内の風景・イベント写真の紹介)
- ・大田笑人(市内で活躍する個人・団体の紹介)

②写真のタイトル

③コメント(200文字程度)

④氏名とペンネーム(本名掲載を希望の場合は不要)

⑤住所(番地も記入。紙面には大字のみ掲載します。)

⑥電話番号

●注意事項

- *原則として受付順に掲載しますが、応募多数の場合は過去に一度も掲載されていない方を優先します。
- *掲載回数の上限は1人につき月1回かつ同一年内3回までとし、2号連続しての掲載は行いません。
- *掲載された場合の謝礼はありません。

※詳細は、市HPをご覧ください。



市史編さんだより vol.50

民俗部会調査速報①⑥ ～民俗調査のお礼と感謝をこめて～

市史編さん事業に伴い令和元年度から実施してきた民俗調査では、230名を超える地域の皆さまから貴重なお話を聞きし、令和5年度末にその成果を『大田原市史資料集第3集 大田原市の民俗』にまとめて刊行しました。

『大田原市の民俗』を編集して、改めて本市の民俗の豊かさや多様性を実感しています。私たちの先祖は、山があり川があり、適度な丘陵がある自然景観と対話しながら、さまざまな民具を編み出しさまざまな農業を営んできました。また、江戸時代から続く奥州道中や那珂川水運、さらに東野鉄道などによる流通を背景に、マチバ(市街地)とムラ(農村部)との交流も育んできました。本市には、日本有数の扇状地形といわれる那須扇状地や広大な八溝山地に育まれたくらしの文化が集約されていると言っても過言ではありません。自然風土にしっかりと足を踏みしめて先祖代々つないできた日々の営みが、今日の大田原市の生活文化として残されているのです。

日本語には「ハレ」と「ケ」ということばがありますが、昨今は「ハレ」を重視しすぎているように思われます。「ハレ」を支えているのは「ケ」です。「ハレ(非日常)」は「ケ(日常)」がしっかりしていなければ成り立ちません。先祖たちは、日常の異変を「ケガレ(ケ枯れ)」と受けとめ、年中行事や祭礼という「ハレ」を大切にしてきました。時には害や水害などがもたらす危機にも、地域ネットワークを活かしながら「ハレ」と「ケ」のリズムを崩すことなく維持してきました。市内に残る

多くの神社や寺院、あるいは路傍にたたずむ庚申塔や十九夜塔にも、厳しい自然の摂理と対話してきた本市のくらしの文化が刻まれています。『大田原市の民俗』は、地域に生き地域を支えてきた皆さまの誇りの記録です。いつまでも大切にしてください。(民俗部会 木村 康夫)



本市を代表する農のくらし・葉煙草のレンボシ
(令和3年 久野又)



庚申塚の上に立つ十九夜塔
(令和2年 小滝)

問文化振興課 A別館2階 TEL 0287-47-5031